

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 元年 6 月 21 日現在

機関番号：32622

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2018

課題番号：15K15841

研究課題名(和文)炎症性腸疾患患者へのe-ポートフォリオを用いたセルフケア支援プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of a self-care support program using e-portfolio for patients with inflammatory bowel disease

研究代表者

富田 真佐子(TOMITA, MASAKO)

昭和大学・保健医療学部・教授

研究者番号：10433608

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：炎症性腸疾患は若年で発症することが多く、長期にわたってセルフケアを必要とする疾患である。本研究では、主に教育の場で用いられているポートフォリオの手法を用いたセルフケア支援ツールとしてe-ポートフォリオを開発した。e-ポートフォリオでは、「私の夢・願い」をもとに「現在の健康状態と治療法・体調管理の仕方」をアセスメントし、マイゴール(私の目標)を設定する。マイゴールに向けて行う毎日の「マイアクション」を自ら定め、その実施状況や日々の健康記録を記録する。情報メディアに詳しい分担研究者と協議しながらツールを開発し、外来通院患者に利用し意見をいただいた。それをもとに修正や新機能を追加して完成させた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

スマートフォンやPCを使った健康関連アプリは、血圧や体重、運動の管理、糖尿病の自己管理などを目的に多数開発されている。これらは、健康的な生活に向けた行動変容やセルフケアの意欲を高めるものとして注目されているが、炎症性腸疾患患者のためのアプリは見当たらなかった。本研究において開発したアプリを、今後スマートフォンを日常的に利用している患者などに活用していただけることを希望している。学術的にもWebを使った患者支援は注目されているものの、十分な検証には至っていない。ICT技術が進む中で、本研究で開発したアプリはセルフケアに役立つことが期待され、学術的な評価を今後行っていく必要がある。

研究成果の概要(英文)：Inflammatory bowel disease is a disease that often affects at a young age and requires long-term self-care. In this study, we developed an e-portfolio as a self-care support tool using the portfolio method mainly used in the educational setting. In the e-portfolio, based on "my dreams and wishes", we assess "the current health condition and how to treat and manage physical condition" and set my goals. Set up patient's own daily "My Action" to be done toward My Goal, and record its implementation status and daily health record. We developed a tool in consultation with a researcher who is familiar with the information media. We used it to outpatients for comments. Based on that, I completed it by adding corrections and new features.

研究分野：看護学(臨床看護学・地域看護学)

キーワード：セルフケア支援 炎症性腸疾患 ポートフォリオ ICT

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

クローン病や潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患(以下 IBD とする)は、若年者に多く発症し、再燃を繰り返しやすい難治性の腸疾患である。両疾患とも厚生労働省特定疾患に定められているが、未だ病因の特定、治療法の確立には至っていない。患者数は近年急増し、クローン病は 4 万人、潰瘍性大腸炎は 14 万人を超えている(2015 年)。症状は消化器症状と発熱や倦怠感など全身症状が長期にわたり、再発再燃を繰り返すことが多い。

研究代表者は、長年 IBD 患者を対象に QOL を視点とした質問紙調査を行ってきた。これらの研究から、多くの患者は食事療法や消化器症状による生活上の困難を感じながらも、セルフケアに関する意欲は比較的高く、周囲からのサポートにより QOL の向上が図れることが明らかになっている。また新しい治療法として導入された抗 TNF- 抗体療法により QOL が向上した患者もいる一方、効果が減弱もしくは無効だった例も多く、その場合の QOL が著しく低下することも明らかになった。社会生活に支障をきたし、将来に不安を抱えている患者であっても、自らの目標を持ち疾患をセルフコントロールすることができれば、より充実した生活が可能となり QOL も向上する。

看護師によるセルフケア支援の必要性和効果については、国内外において相当数報告されており、セルフケア支援は看護において重要な課題であることが伺える。しかし IBD に対するセルフケア支援については食事指導プログラムの開発や退院支援に関する有効性が報告されているが未だ多いとは言えない。一方欧米においては IBD 専門看護師が存在し、教育的介入研究や実践報告も多い。Cochrane Library の文献レビューでは、IBD 専門看護師による看護介入に関する有意な差は検証できなかったものの、近年ではセルフマネジメントプログラムや Web を利用した治療プログラムの報告もされている。

2. 研究の目的

これまでの研究結果を活かし、本研究では「セルフケアに活かす電子ポートフォリオ」を開発することを目的とした。ポートフォリオは、自分で設定した目標を達成していくプロセスの中で、生み出された成果物を残し、客観的に評価しながら学習する教育方法として確立している。看護師のキャリア開発や卒後教育にも用いられている手法であるが、これを患者教育に適用する。

3. 研究の方法

(1) ポートフォリオの内容

ポートフォリオでは、自分の生活や健康状態を自分自身でアセスメントし、自らの生き方を尊重しながら目標(マイゴール)を定める。ポートフォリオには、患者が日々生活する中で体験した症状や習得したセルフケア能力、知識、健康管理状態を示す生理学的データや検査結果、食事記録あるいは健康管理に役立つ Web 情報や新聞の切り抜きなどを保存する。

(2) ポートフォリオの制作

ポートフォリオの原案を研究代表者が考案し、情報メディアの専門家である研究分担者と委託業者との意見交換を繰り返しながらパソコンやスマートフォンで利用できる電子ポートフォリオ「e-ポートフォリオ Ver.1」を制作した。

(3) ポートフォリオの評価と修正

研究協力が得られた大学病院の外来患者を対象にポートフォリオの趣旨と利用方法を説明し、2 カ月間利用した後、質問紙にて評価を得た。これに基づきポートフォリオの追加修正を行い「e-ポートフォリオ Ver.2」を完成させた。

4. 研究成果

2017 年 3 月~4 月に A 大学病院を受診し医師より紹介された外来患者 33 名に研究内容を説明し、26 名より同意を得た。その内 10 名から質問紙の返送があった。使用しての感想として、毎日利用するスマートフォンに自分で決めた健康行動の記録を残せることはセルフケアに役立つという意見などが聞かれた。システムの不具合に関する指摘や表示の修正、リマインド機能や利用者同士が交流できる SNS 機能の希望などもあり、それらを参考に新たなアプリ「IBD ノート」を制作することができた。

<e-ポートフォリオ Ver.2「IBD ノート」の内容>

(1) ゴールシート

私の夢・願い、現在の健康状態と治療法・体調管理の仕方を自らアセスメントしマイゴール(私の目標)を定める。マイゴールに向けて行う毎日の体調管理をマイアクションとして設定する。

(2) 健康チェック

自分で設定したアクションの評価と元気度、服薬、腹痛、下痢、他の症状、便の回数、栄養剤、体重、体温を登録する。自分で決めた日々のアクションの達成率やチェック状況をグラフやカレンダーで見直すことが出来る。毎日の健康状態を登録する事で、ご自身の体調を把握しやすくなり、マイアクションの記録はセルフケアの励みになる。



(3) 食事記録

体調を維持するための食事管理のために、食事の写真やコメント、食後の体調などを記録する。

(4) 健康記録

体調が悪かった時や対処方法などを、詳しく記録しておくことで、同じ症状が出現したときの参考になる。血液検査結果や処方箋などをカメラ機能で画像保存したり、疾患情報のホームページアドレスを保存したりしておくことも体調管理に役立つ。

(5) みんなのレシピ

自分のレシピを投稿したり、おすすめのレシピを見ることで食事作りのヒントとして役立つ。

(6) リマインダー

外来受診や自己注射の日程を保存し、メールでお知らせするリマインダー機能である。

(7) つながるトーク

アプリを利用している患者間でのチャットによる情報交換の場になる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

第 12 回日本慢性看護学会学術集会 2018 年 7 月発表：炎症性腸疾患患者への e-ポートフ

どた

オリオを用いたセルフケア支援アプリの開発

〔その他〕

ホームページ開設準備中

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：辻岡卓

ローマ字氏名：Suguru Tuji

所属研究機関名：四国大学

部局名：経営情報学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：20389159

(1)研究分担者

研究分担者氏名：戸川聡

ローマ字氏名：Satoru Togawa

所属研究機関名：四国大学

部局名：情報処理教育センター

職名：教授

研究者番号（8桁）：20399166

研究分担者氏名：鈴木直美

ローマ字氏名：Naomi Suzuki

所属研究機関名：四国大学

部局名：経営情報学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：10289308

研究分担者氏名：細川康輝

ローマ字氏名：Yasuteru Hosokawa

所属研究機関名：四国大学

部局名：経営情報学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：20341266

研究分担者氏名：布谷麻耶

ローマ字氏名：Maya Nunotani

所属研究機関名：愛知県立大学

部局名：看護学部

職名：その他

研究者番号（8桁）：70514735

(2)研究協力者

研究協力者氏名：片岡優実

ローマ字氏名：Yumi Kataoka

研究協力者氏名：黒川優一郎

ローマ字氏名：Kurokawa Yuichiro

研究協力者氏名：鈴木浩子
ローマ字氏名：Hiroko Suzuki